

2020.8.3 第5回広域避難実現プロジェクト

自主的広域避難情報（広域避難の呼びかけ）[仮称] の発表とその実施体制について

■自主的広域避難情報（広域避難の呼びかけ）〔仮称〕の発表の目的と意義

目的

浸水人口が膨大で浸水が長期化すると想定される中、浸水域外への避難者を少しでも増やし、犠牲者ゼロを実現することを目的に、プロジェクトとして、「自主的広域避難情報（広域避難の呼びかけ）〔仮称〕」を発表する。

※ 災害対策基本法に基づく「避難勧告」や「避難指示（緊急）」では、早期段階での広域避難の基準を設定すること等には困難を要すると考えられることから、まずは、法律には基づかない「自主的広域避難情報（広域避難の呼びかけ）〔仮称〕」を行う体制について検討する。

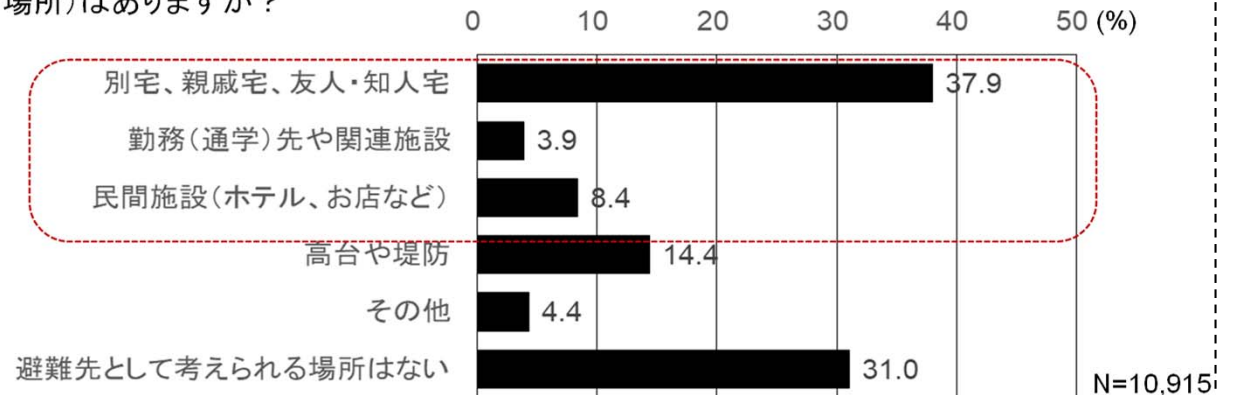
意義

➤ 浸水想定区域外への広域避難を早期段階で呼びかけることで、大規模水害時における被害低減の実現が期待できる。

➤ 具体的な広域避難先が示されなくとも避難先として考えられる場所があるという住民も相当数存在しており、自主的な避難場所の確保も含めて早い段階で広域避難等を呼びかけることで、大規模水害時における被害を低減させることが期待できる。

（参考）広域避難の呼びかけがあった場合の避難先の当て（H28年度8市町村調査）

仮に、「浸水の恐れのない地域（他市町村）への広域避難の呼びかけ」はあったものの、具体的な広域避難先が指定されなかった場合において、避難先として考えられる場所（頼れる場所）はありますか？



➤ 8市町村が共同で早期段階から自主的な広域避難を呼びかけることで「広域避難が必要なほどの大規模水害が想定されること」、「8市町村が共同で呼びかけが必要なほどの事態であることを」が認知され、避難の促進が図られることが期待できる。

■第4回プロジェクト(2019.5.26)をふまえた確認事項

1. これまで検討してきた「自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]」については、本プロジェクトとして実施していく方針とし、広域避難計画(第1版)としてとりまとめる。
2. 自主的な広域避難を基本としつつも、逃げ遅れた人や遠方避難が困難な人については市町村内の避難場所へ収容するなど、二段階の避難のあり方について検討、整理する。
3. アクションプランに基づき、本プロジェクト(8市町村)としてできること・できないことを整理し、項目ごとの取り組むべき主体を含めて広域避難実現に向けたロードマップを再整理する。

■本プロジェクトで取り組む、広域避難実現に向けたロードマップ案

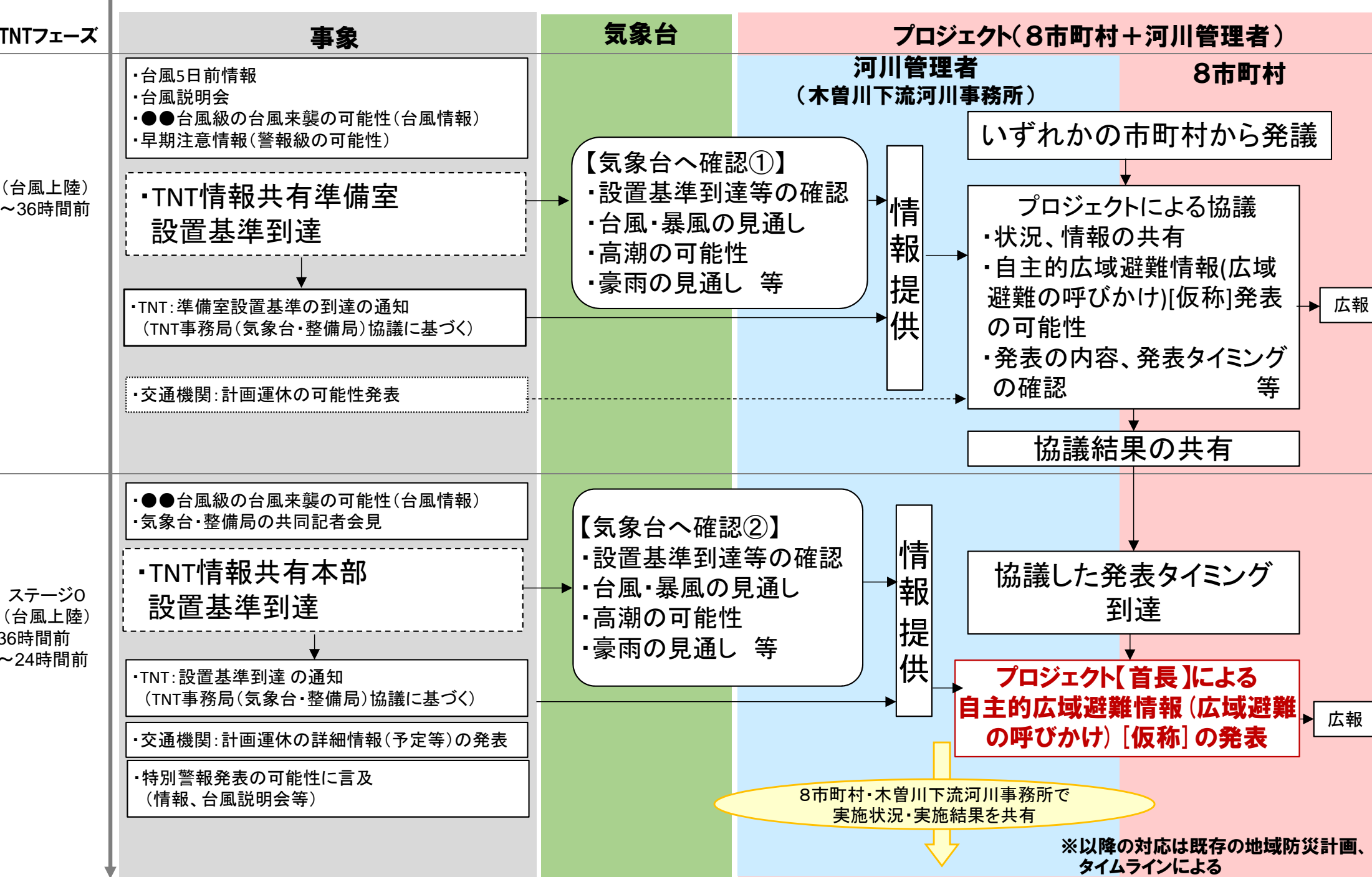
現時点



注)H27年策定時点のアクションプランに基づく内容項目のため、昨今の防災行政の状況等に鑑みて、項目によっては実施の有無や主体について見直す必要がある。

広域避難計画の完成

■自主的広域避難情報（広域避難の呼びかけ）[仮称]の事前協議および発表のタイミング



■ 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の事前協議および発表 実施フロー

台風上陸
36時間前
までに実施

【自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]に係る協議実施の目安(タイミング)に到達】

協議実施の目安(TNT情報共有準備室設置基準)に到達

气象台
木曾下
・基準到達等の確認
・台風、暴風、大雨、洪水、高潮の見通し

8市町村
いずれかの市町村から協議実施の発議

木曾下
・8市町村に情報提供

プロジェクトメンバー
・情報共有、協議開始の時間等の確認
・協議準備(TV会議または参集)

プロジェクトメンバー
協議を実施する旨の広報
※既存の情報伝達手段
※ホームページ、SNS、メール等

【協議の実施】

プロジェクトによる協議

- 台風および高潮・暴風・大雨等に関わる状況、見込みの確認
 - 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の実施に関する協議
 - 情報発信のタイミングに関する協議
 - 8市町村首長への実施の確認
 - 8市町村首長への確認完了
 - 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の発表の実施及び発表タイミングの決定
 - その他、今後の対応に関する協議、確認等
- 散会

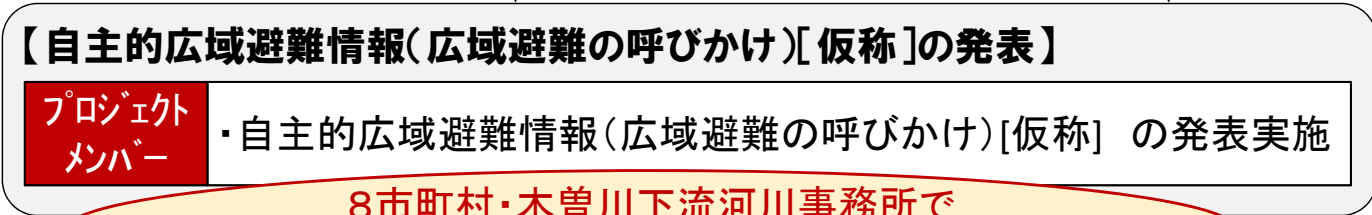
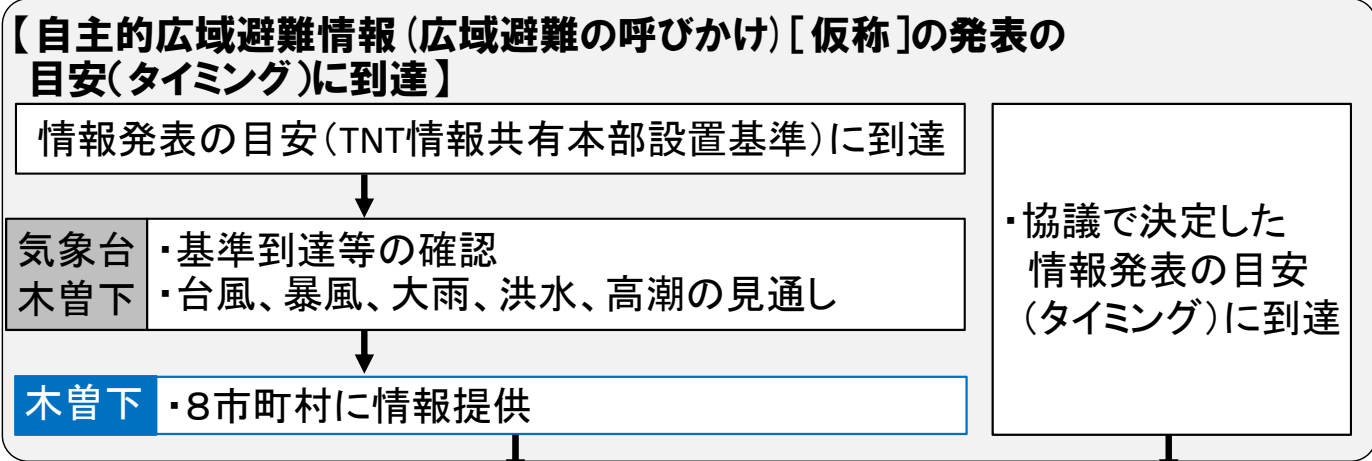
8市町村首長
・協議事項の共有
・実施の確認

プロジェクトメンバー
自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]発表決定の広報
※既存の情報伝達手段
※ホームページ、SNS、メール等

台風上陸までのリードタイム

必要に応じて、8市町村の発議のもと、随時協議を実施

ステージ0
台風上陸
24時間前
までに実施



8市町村・木曾川下流河川事務所で
実施状況・実施結果を共有

プロジェクトメンバー
自主的広域避難
情報(広域避難の
呼びかけ)[仮称]
の情報発信

※既存の情報伝達手段
※ホームページ、SNS、メール等

プロジェクトメンバー
プレスリリースの
実施

※以降の対応は既存の地域防災計画、タイムラインによる

■木曾三川下流部 高潮・洪水災害広域避難計画（第1版）の作成

- 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の発表およびその実施体制を主たる内容とした、「木曾三川下流部広域避難計画 第1版(以下「計画第1版」という)」を作成

目次	概要
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> • 木曾三川下流部における大規模水害のリスク、当地での取り組み経緯、計画の目的について記載。 • プロジェクトの参画機関を掲載。
1.計画の目的	<ul style="list-style-type: none"> • 「木曾三川下流部 高潮・洪水災害広域避難計画」の目的、および計画(第1版)の目的、位置づけについて記載。
2.想定災害の概要	<ul style="list-style-type: none"> • 本計画で対象とする想定災害の概要について記載
3.自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の発表と実施体制 3-1.情報発表の目的 3-2.情報発表の実施 3-3.情報発表に関する協議 3-4.情報発表の実施基準 3-5.広報の実施 3-6.情報発表の実施フロー 3-7.平時からの周知・意識啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> • 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]発表の目的と意義について記載 • 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の発表とその実施体制、広報等について記載。 • 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]を実施するにあたって、平時からの地域住民(自治体職員を含む)への周知・意識啓発の必要性について記載。
4.大規模水害時の避難に関わる今後の課題 4-1.避難先および避難行動について 4-2.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> • 3章以外の避難誘導に関わる事項については、既存の地域防災計画に則ることを記載。 • 引き続き、アクションプランに基づき取り組みを継続し、逐次本計画を更新していく旨を記載。 • アクションプランに基づくロードマップを記載
巻末資料	<ul style="list-style-type: none"> • 対象地域で実施したアンケート結果や広域避難シミュレーションによる分析結果等を参考資料として掲載。

■住民向けリーフレット案の作成

- 自主的広域避難情報(広域避難の呼びかけ)[仮称]の周知、およびそうした情報発信が必要な背景(地域で想定される大規模水害のリスク、浸水域内での屋内安全確保の困難性、浸水想定区域外への広域避難の必要性)、プロジェクトでの取り組みについて、地域住民に対して理解を促すためのリーフレット案を作成。

※今後、8市町村と配布方法等を調整し、地域住民への周知を図っていく予定

木曾三川下流部にはゼロメートル地帯が広がり、巨大台風来襲時には、大規模な高潮・洪水災害が発生する可能性が想定できない状況にあります。ご自身のごことして水害対応について考えてみましょう。

伊勢湾台風の再来!
木曾三川下流部で
大規模な水害が発生したら...

どうなる? どうする? 町民へ

木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクトについて

「木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクト」は、木曾三川下流部の8市町村で構成する組織であり、高潮や洪水氾濫による大規模水害からの犠牲者ゼロの実現に向けて取り組んでいます。

8人の市町村長による会議の様子

広域避難体制の構築
大規模水害が発生する前に浸水域内の全ての住民が安全に浸水域内に避難することを確保して、広域避難を基本とした避難対応を推進します。

広域避難の理解促進
木曾三川下流部の水害特性と早期の広域避難の重要性について、広く周知が得られるように様々なPR活動に取り組んでいます。

発行：木曾三川下流部 広域避難実現プロジェクト
(桑名市、木曾町、海津市、会多市、美加市、津島市、賢治町、四日市、国土交通省 木曾川下流川事務所)

地球温暖化の影響で、巨大な台風や今までにないような激しい豪雨などにより、洪水や高潮による大規模水害が世界各地で発生しています。

巨大台風の襲来
暴風と高潮
巨大台風が毎年増加傾向にあり、巨大台風は、まだ多くは予測されておらず、近づくと大規模な被害をもたらす可能性があります。

豪雨の発生
大雨川の氾濫
近年、過去最大の大雨を観測というニュースをよく見かけます。木曾三川下流部は大雨が降り続いた地域です。上記に大雨が降り続いた場合、木曾川・長良川・賢治川が同時に氾濫することもあります。

低地のほとんどが浸水
木曾三川下流部のほとんどが浸水
24万人が浸水
最大で5m以上の深い浸水
台風接近時外出できないほどの強い風・雨
想定避難場所
高台(標高5m以上)

このように水害が木曾三川下流部で発生したら、どうなってしまうのでしょうか?

浸水継続時間
～12時間
～24時間(1日間)
～72時間(3日間)
～1週間
～2週間
～4週間

あなたと家族を守るために
より安全な**広域避難**

親戚・知人宅や宿泊施設・動機先等、各自で避難先を確認してください。

濃尾平野の地形図
標高を10mごとに色分け

ゼロメートル地帯にほどなることは危険です。標高が高い地域や浸水のおそれがない地域へ避難(広域避難)しましょう。

早い段階で浸水のおそれがない地域へ

浸水の中で水が引かずに2週間以上も、電気・ガス・トイレが使えない生活に耐えなければなりません。

台風の接近や浸水で身動きがとれない!

風や雨が強まると
車のタイヤが乱れたり、運行停止になります。
電車が運行停止
電車の移動も困難

浸水が引かない
2週間以上
2週間以上浸水

橋や駅に避難者が集中し、大混雑や大混乱が発生するおそれがあります。
一斉に避難すると...
渋滞や避難者の集中による混乱

このような状況を避けるために、プロジェクトで**台風接近前の早い段階**から情報を発信します

もしかしたら、今回の台風は...
36時間前までに
市町村からの情報
市町村から36時間前に浸水想定区域が発表されるとき
プロジェクトで協賛開始
広域避難のための協議を始めます

どうやら、可能性が高まってきた...
24時間前までに
市町村からの情報
市町村から24時間前に浸水想定区域が発表されるとき
自主的広域避難情報(仮称)を発信
浸水想定区域外の安全な場所への自主的避難を呼びかけます

その後は...
あなた自身の早めの判断が、あなたや家族の命を守ります。気象情報なども積極的に収集し、早めに避難しましょう。

「自らの命は自らが守る」大規模水害に対応する主体性が求められます

<国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～>

「自主的」は、決して他で代るものではありません。**「自主」は「あなた自身の命を守る」ことです。**
・気象情報は早急に確認し、いつ、どこで車が止まってもおかしくありません。
・行先が一人ひとりの状況に合わせた避難先を出すことは**とても重要**です。自然の脅威が押し寄せているとき、避難は一人ひとりが自分で行くべきです。
・行先は万が一のときの**安全な場所**に避難してください。
・避難するかどうか、最後は「あなたの判断で」**皆さんの命は皆さん自身で守ってください。**
(中略)
・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人での避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合います。
・行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

※内閣府中央防災会議「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)」より抜粋
大規模水害から犠牲者ゼロを実現するためには、地域の皆さんが主体的な対応行動が必要不可欠です。木曾三川下流部広域避難実現プロジェクトでも、地域の皆さんの命を守る行動を最大限サポートするため、取り組みを継続していきます。